

里地里山保全再生モデル事業（神奈川県秦野地域）
試行事業に向けた意見交換会（東地区）議事概要

日時 平成17年6月23日(木)14:00～

場所 東公民館 会議室

参集者

里地里山保全団体
 名古木里山を守る会
 かながわ山里会
 丹沢ドン会
 荒廃農地解消ボランティアの会
ふるさと伝承館運営連絡協議会
東田原ふれあい農園組合長
生産組合長代表
森林組合
農業委員
東地区安心して住めるまちづくり運動実施委員会
農協東支所

鳥獣・ヒル問題について

・ヒルは退治が難しく、地下水の関係で薬剤はまけないから、鹿を奥山に返すという対策が良いのではないか。狩猟者も年をとって山に入れなくなっている。鹿を奥山に返せば、畑の獣害も減る。今のままでは農家は畑をやる気がなくなってしまう。

【市】鹿対策は、県で柵を設け効果を調査している。しかし猪に柵がこわされたり、川の部分は柵がないのでそこから鹿が入り、効果をよく検証できていない。そのあたりを検討してまた調査を継続しようとしている。ヒル対策については、県とも検討を進めていきたい。

・柵を張ったというが、柵なんて意味がない。道路と川のところで柵が開いていて、鹿はそこを通るから意味がない。

・荒廃農地の解消・耕作を何反歩かしている。東田原、堀山下で行っているが、せっかく解消して作物をつくっても鹿に殆どやられている。ジャガイモが半分以上、落花生は新芽を全部摘まれて皆無。補植しないといけない。柵を張って調査というが、まず今、里に住みついている鹿の状況を把握しないといけない。ボランティアでも集めて調査してほしい。どの地区にどのくらい棲んでいるか調べて、その鹿をやっつける対策をたてないと畑なんてやてられない。

・北海道ではしのび返しをはって電気を流している。相当な金額がかかっていると思う。

・週3回、鹿・猪・猿対策の管理委員として現地に出ているが、柵は昨年から行われたところは効果があがっている。現場に行った感覚では非常に少ない。調査については、県の自然保護センターの調査に加わっているが獣の調査は難しい。足跡の数から数えるが正確な数の把握は困難。対策として奥山に返せば良いという意見があったが、今は里で繁殖していて、里で生まれたものは山には帰らない。また農家の作物を生まれた頃から食べているので作物ばかり食べる。獲ればよいというが、人家が近いので銃の使用はできない。だから対策としてはまず、里地を獣が住めない状態にするのが良い。昭和40年代、狩猟をしていた頃はこの辺に鹿はいなかった。しかし今では里地が荒れてきて、鹿の格好の住処になっている。県のヤマヒル対策の委員もしているが、ヒル対策としてはまず鹿がこないこと、鹿がいなかったら里地をきれいにする。ヒルは、ヒノキ、スギ林にいる。きれいなどころにはいない。水無川から西には極端に少ないが、川からこちらはびっくりするほどいる。なぜなら鹿の行動範囲だからだ。鹿の進入ルートは二つあるが、札掛から来るのが一番ヒルを持ってくる。秦野峠を越えて来るルートもあるが、あまり多くはない。里山の整備をすれば、鹿、ヒル対策には効果があると思う。

- ・ 鹿、ヒルについては現状や対処方法等の情報発信が必要ではないか。ヒルが何に弱いかなど、農家の方は知らない場合がある。塩をかけると落ちるし、前日に衣類を塩水につけてそれを乾かして着ていくとヒルがつかない。そういった情報を発信することが重要だろう。
- ・ 山に塩を撒くのは、少しなら出来るが広範囲にはできない。塩害の恐れもある。
- ・ 私たちハンターは、山にライターを持っていく。ヒルは、切られても3分の1くらい体が残っていれば再生する。あぶって完全に殺さないといけない。卵は数千個単位で産む。雌雄はなく、体の3倍の血を吸って、血を吸ったら卵を産むそうだ。
- ・ 【市】鹿については、対策をモデル的にやるうという地区がある。鹿さくの内側を全部刈るというのを実行する予定。農業や農地に関わることは里地里山の一環ではあっても行政だけではできないので、その対策を具体的に進めるために皆さんと話あいたい。
- ・ 【市】鹿やヒルがいるから里地里山の整備が出来ないということだけでなく、この事業をいかして、鹿ヒル対策も里地里山保全に位置付けてやっていけば良いと思う。住民ぐるみで、国と県と市と一緒に取り組んでいくことがモデル事業になる。

実践フィールドについて

- ・ (東地区の中で通り組むフィールドを決めるとしたら)都市住民のために準備された、トイレも水もあるような整った所では取り組む意味がない。荒廃地が沢山あるところを、ボランティア入って竹など刈って、きちんと整備に取り組むべき。整備済みのところでは意味がない。モデル事業として整備することが前提になっているのだから、荒れて困っているところできちんと取り組む。そうでないと意味がない。
- ・ 金目川の上側に鹿がいる。周辺で今年は鹿柵をしたようだが、金目川周りの田んぼの畦畔にヒルが沢山いる。金目川は県の河川だが、河畔はどこが整備するのか。あそこに藪が生え藪になっているから鹿が棲んでヒルをもってくる。だからその周りの農家は田んぼを誰もやってない。そういう所を皆の力で綺麗にすれば、鹿もヒルもなくなると思う。先ほど言われたように鹿が住まないようにしないとダメだ。
とにかく人家の周りから綺麗にして追い出すようにしなければいけない。
- ・ 人家の近くの里地里山を綺麗にすれば、子どもが入って遊べる場所も増える。
- ・ とにかく、整備は身近な所から始めよう。
- ・ (整備・活用するフィールドは)農業振興地域もいいのか。
【市】森林づくり課では難しいが、農業委員会等も含め市の各課を通して対応可能か考えるので、場所と所有者を教えてください。

地権者や農地法への留意について

- ・ 地権者の関係には注意が必要。落ち葉かきを今までしてきたが、了解を得た地権者の土地と思って綺麗にしたところ、別の人から「うちの山ですよ」と言われてしまった。他の地主のつもりでいやら違った。地主とのかねあいが重要。
- ・ 私たちの会は、これまで里山を主体に取り組んできた。個人の土地を借りている。里地に関しては農地法に関わる。ボランティア団体は田畑を借りてやっているというが、農家でなければ農地を借りることはできない。農地法と入会権の問題が解決しないと前進しない。だから農家はボランティア団体に農地を貸してるなんて公に言えない、農地法に触れるから。今はボランティアのやっているところは農地法違反。地主とボランティアの間は市がきちんと仲介に入り、違法等ないようにすべき。

【市】県の方でそのあたりの規制緩和をするよう、現在検討している。
【事務局】農地法関連の2法案(農業経営基盤強化促進法、特定農地貸付法)が改正された。耕作放棄地に関して、地権者に対して自治体や農協や農業委員会がつくる組織が、農家以外のところに対し、5年間の期限付きで耕作を許可できることになった。強制的に耕作放棄地を解消するための動きが国ではある。どこまで強制するかは地域のそれぞれの考えだが。

- ・ ということを含めて地権者の権利を最大限に保障するのが、里地里山保全の重要なことになる。地権者自信がしっかりしないと境界線もあいまいになるよという意味で、進めていくのはよいと思う。

地域の活性化について

- ・ 前年度、北・西地区の懇談会にも出席したが、そのとき農家の生々しい実態を聞くことができた。あの内容を掘り下げてほしい。もう一点、里地里山の問題はそもそも農水省が取り上げるべき農村の問題。それをなぜ環境省がとりあげられなければならないのか。それは秦野が農村として、農業が成り立たなくなったということ。その刹那的な対策としてふれあい農園などがある。秦野の農業的基盤の崩壊を前提にしたような、あたかも里地里山の介護保険のような提案に疑問を感じる。そうではなく、これだけの資源があるのになぜ農業がダメになったのか、根本的なところを議論してほしい。答えはでないかもしれないが、秦野で地についた農業を続けていきたいという人はいるはず。そういう立場を前提として、農家が生きがいを感じながら仕事や生活ができるということに、里地里山の保全の柱をおくべき。
持続可能な里地里山にするには、自立的な農業を作らなければ刹那的な取組みにすぎない。秦野の農業に根付く人を育てる教育も必要。そのようなことを基盤にしなければ、過渡的な補助で終わるのではないか。
実際には私たちは、荒れた休耕田を耕し畑で野菜をつくり、市との協定による森林の手入れ等を行っている。ボランティア活動をする中で、秦野の農業に貢献したいという人が育つことを願って学生の受け入れもしている。秦野の農林業を支持できるような方向のもとに、ボランティア活動を取りこんでいくべきと思う。
- ・ 自然保護に重点がおかれていて、地域活性化に重点がおかれていない。私は農家だが地域の活性化に取り組んでいる。今の試行事業の提案ではそういうことが論じられておらず、寂しい。
【事務局】地域の活性化とは何かということ、人により地域により活性化の捉え方が違う。経済の活性化もあれば交流のことをいうこともある。どのような活性化が良いのか地域によって異なる。例えば上地域の場合は純粹に交流の仕組みが活性化につながる。東地区の場合は経済に結びつくのが活性化かと思う。一方で、ヒルがいるのでは山に入れないから入れるようになるのが活性化、ということもある。
ボランティア活動については、地権者がどう思い、どう行動したいかということと結びついていないとうまくいかない。
フィールドとしてこの辺りを綺麗にすると良いという所、或いは地区の中でこんな活性化策こんなことを戦略に盛り込んだ方が良いという意見があればあげていただきたい。
- ・ ここは農村地域なので、「活性化」には食料自給が重要だと思う。荒地を整備して、少しでも生産、自給を引き上げていくことが重要だと思う。もう一つ、私は南地区だが、南に自然観察の森があるがどう整備したらよいか分からない。橋をかけたし、茶畑も、杉林もある。環境はよい。面白いことができると思うが、金をどこが出すのか。

行政支援とまちづくりについて

- ・ 環境省の里地里山事業の趣旨は環境保全だと思う。どの程度まで国が、農業を含めた秦野のまちづくり全体に助成や活性化の支援をしてくれるのか。一次二次三次と段階があるが、ある程度目安が私たちに伝わってこない、前向きな考え方はでてこないのではないか。

【事務局】モデル事業なので、明確な目安はない。他省庁と一緒に調整しながら検討している。どうやったら今後の環境行政、農政に生かしていけるかを全国のモデル事業で検討している。この2年でどういうことが出来るかを精査する。そして事業化できそうなものを実際に事業化していく。よさそうなら、それをさらに全国にも広げていく。秦野に関しては、様々な試行的なこと検討していくことになる。

【市】事業案に対していくら出してくれるのかと聞いても答えはない。市の各部署が各種施策をしている。それに国や県にも支援してもらって具体的な事業をして、秦野の活性化を進める。秦野の秦野らしさを生かす活性化ということで里山に注目してモデル事業としてやっている。現在も市は農業施策は農業施策としてやっている。それ以外の手の届かない部分、秦野らしさの一つである美しい里山を皆で復元していこうということ、環境省に手伝ってもらって進めている。

【市】秦野では市街地を主としてまちづくり推進課がまちづくりの施策に取り組んでいる。しかし本当の秦野らしさは市街地でなく周辺の里地里山だと思うので、その良さを訴えるのが、本当の秦野らしいまちづくりに繋がると思う。

- ・ 国から金もらうのを待ってたら何もできない。要するに自分たちで自分の町づくりをしなくちゃいけない。
里山をきれいにすれば鹿がいなくなる。「鹿がいるから整備ができない」「整備をしないから鹿がくる」と言っていては解決しない。やったほうが早い。
- ・ 地域の人たちが地域の宝物は何かということ認識することがまず大切ではないか。私たちは都会から来たので地域の様々なものを宝と感じている。里地里山には自然環境がつくりだしたのも文化も詰まっている。秦野らしさが充満している。そういう秦野の良い所を自分たちが手助けして良くして、次の世代に伝えていくということがないと、何のために里地里山の保全再生をするのか、意味がない。
ただ現状としては農家だけでは何ともしがたいというのが、全国の里地里山に共通する状況なので、それをどうするか自分たちだけで出来ないところをどうやっていくか。そこが回りまわって地域の自給や活性化に繋がる。それには時間はだいぶかかるが、そのための全国にさきがけてのモデル事業。ヒルのことも重要だが、ともかく、みなで知恵だしてやるという気持ちがないといけないと思う。